

公園名	南原峡県立自然公園		地区名	南原峡		位置	広島市安佐北区可部町		
面積 ha	全 体	環境庁	国有林	その他国有地	県有地	市町村有地	その 他		
保護計画	昭和42年9月1日 県告第777号 第1種、第2種、第3種特別地域								
施設の種類	車道、歩道、駐車場、野営場、園地								
計画決定 年月日 番号	一般計画 S. 42.9.1 県告776号			事業決定 年月日 番号					
利用計画	年間利用者数	A 20,000人		季節型	2	最大日率	B 1/40		
	年間宿泊者数	C 3,000人		平均滞在時間	3	回転率	D 1/2		
	最大日利用者数	E = A × B 500人		最大時利用者数	F = E × D 250人				
利用人員 59年	総 数	自然探勝	スキー	キャンプ	海水浴	スポーツ		その 他	
	82千人	72千人	人	10千人	人	人	人	人	
施設整備の状況	全体計画	58年度末	59年度	59年度末	他事業整備	備 考			
	区分	数量	数量	数量	数量				数量
	車道	2 km							
	歩道	2 km	2		2				
	園地	0.2 ha	0.1		0.1				
	休憩所	1棟							
	便所	1棟							
	野営場	200人	200		200				
	便所	2棟	2		2				
	炊事棟	2棟	2		2				
	駐車場	20 台							
	スキー場								
	桟橋	基							
	宿舎								
	テニスコート								
	運動広場								
	ビーチハウス								
	海浜								
	リフト								

南原峡県立公園候補地区域及び公園計画

第1 公園区域

1 区域設定の基本方針

(1) 本公園候補地の区域は可部町北部の山地で、安佐町境の堂床山（859.6m）山県郡千代田町境冠山（735.7m）と高田郡八千代町境備前坊（789.4m）の中間の後中倉山背梁山地の地域と南原峡を中心とする渓谷を一団地として設定する。

2 区域

本公園の区域は別紙図面のとおりとする。その関係字名又は隣接町はつぎのとおりである。

関係字名 大字南原字可部山

" 字猿ヶ馬場

" 字後中倉の一部

隣接町 安佐郡安佐町

山県郡千代田町

第2 公園計画

1 基本方針

(1) 現況及び特性

本公園は可部町の北部に位置し、堂床山、冠山、後中倉山、堂面橋を

結ぶ9.87Km²の山地と、渓谷部からなる団地で、その所有区分は、財産区有林709ha民有地64haで、公園計画区域のほとんどは財産区有林に属する。

現況及び特性は次のとおりである。

ア 地形・地質

本公園の主要部である加賀津の滝、孫太郎滝を中心とする一連の渓谷群を南原峡と呼び、堂床山、冠山、備前坊を結ぶ⁽¹⁾陵線に包まれ、これらの山から流れる3条の断層線に沿うて、河谷線が顕著に発達し露頭した花崗岩を主体とする一連の渓谷群をなし、一つのタイプを示すものとして注目される。土壌は花崗岩類の風化分解した砂土、砂壤土よりなつている。

イ 地被

本地域は、海拔600m~850mで、表土は砂礫であるため、山頂は高度に侵蝕され、平坦部が発達し、総じて、山形は丸味をおび高原的な地形が多い。

しかし3条の断層線はこれらの地形と相反して花崗岩が露頭した渓谷地帯である。

植物は天然林96%人工林4%の割合に密生し、そのほとんどが広葉林である。

ウ 特殊景観

(1) 自然景観

冠山を中心に、西に堂床山、東に備前坊の間の断層溪流に巨岩奇石が重疊として並び、断崖に生きぬく樹木が形よく散在し、

その間の瀑布は飛沫をとばして霧となし、春の深緑、秋の紅葉、季節それぞれの景観はすばらしい。

(2) 植 物

加賀津の滝を中心とし、紅葉する広葉樹が多く、また、しやくなげ、つつじの類も多く自生している。

(3) 野生動物

元来、きじ、山どりの類が多いところで、ハンターの格好の場所であつたが、現在では鳥獣の保護区域となつていて。特に近年は野猿群が多くキャンプ跡の残飯を探しに群れが降りてくるのが見受けられるが、現在のところでは遠望する程度である。

(4) 文化景観

(1) 山の神神社

大山祇の神をおまつりしてある。

3月14日が祭礼

(2) カトリック教会修養道場

毎土曜日修養会が催される。

エ 産業関係

1 林業関係

本公園内の主な産業は林業であるが、景観上重要な地域については保安林であり、自然公園維持上有利である。また、今日では薪炭の需用も少なく、労力不足で林業として見るべきものはない状態である。

2 水産業関係

定置漁業が1カ所行なわれている（名称 国際ます釣り場）が
一般漁業は行なわれていない。

3 矿業採石

現在では区域内で採石していない。民有林における今後については、その都度調整をはかる。原則的には部落内の申し合せで採石を制限している。

4 発電関係

名 称 南原発電所

位 置 可部町大字南原字山の神（公園候補地南部）

規 模 最大出力 130 KW

水 量 $0.23 \text{ m}^3/\text{sec}$

経営主体 三入農業協同組合

5 農耕地、放牧地、採草地等

農業関係に關係なし。

(2) 保護の方針

本公園候補地は、開発の進んだ可部町地方では珍しく原始生に富んだ地域であるので、これらの保護に重点をおくとともに、本地域を特徴づける渓谷地帯を中心に適正な保護をはかるものとする。

3 利用の方針

ア 本候補地は、広島市の近距離にあるため、四季を通じて探勝する人

が多く、附近にカトリック教会の修養道場がある関係で、外人も訪れている。又近時自家用車の利用者が激増し、家族ぐるみの行楽客が目立つている。

可部町は、町道補修計画を40年度に樹立し、この南原峠線も、初年度300m第2年目に500mを補装計画をなしており、又41年度でグレーダー1台を購入し、道路補修整備を念頭に、この公園地区内外を有機的に結ぶ道路も整備をはかり、利用の適正をはかる。

- 1 公園予定地内に小規模園地を2カ所、駐車場（バスも使用可能）2カ所、公衆便所10カ所、ベンチ10カ所、休憩所2カ所、野営場1カ所
- ウ 今後とも、登山、ハイキング、探勝等の利用が主体となるので、これらため必要な施設を計画する。

4 計 画

(1) 保護計画

ア 特別区域

□ 区 域	925 173ha
第1種	196 192ha
第2種	222 172ha
第3種	507ha

名 称	位 置	第 1 種		第 2 種		第 3 種	
		区 域	面 積	区 域	面 積	区 域	面 積
南原峠	広島県 安佐郡 可部町 大字 南原地区	安佐郡 可部町 大字南原 字猿ヶ馬場	196 ha [192]	安佐郡 可部町 大字南原 字可部山	222 ha [172]	安佐郡 可部町 大字南原 字可部山 後中倉 の一部	507 ha [509]

(1) 保護詳細計画の概要

第1種特別地域は、山の神、鳥帽子岩、びようぶ岩、孫太郎滝、夕霧滝、釣鐘岩、傾城ヶ淵、榎木岳、猿ヶ馬場、明神岳、獅子岩夫婦岳、加賀津の滝、いしふねの滝に、それぞれ本地域の核心的な景観を示すものであるから、極力その保護をはかることとし、原則として、別に定める公園計画による利用施設のほかは、人工を排除する。

第2種特別地域については、第1種特別地域について重要な地域であり、つとめて現景観の保護をはかるものとする。なお、広島県立自然公園条例第7条第3項の各号に規定する許可行為のうち¹¹公益上必要と認められるものについては、調整をはかるものとする。

第3種特別地域は、第1種、第2種特別地域より景観保護上の重要性はことなるが、地形上一体をなす地域であり、風致維持及び

利用上の見地から公園区域に編入する。

(2) 利用計画

ア 単独施設

番号	施設箇所	施設の種類	位 置	工 種	備 考
1	南原峠	野當場 便所2 洗場1 ベンチ4 キャンプフ アイヤーサークル1 プール1 駐車場1	安佐郡可部町大字 南原字後中倉	新設	
2	南原峠	小規模園地	安佐郡可部町大字 南原字可部山	新設	加賀津の滝附近 既設 便所 2 休けい所 1 駐車場 1 ベンチ 2
3	南原峠	園 地 水呑場1 ベンチ1 駐車場1	安佐郡可部町大字 南原字猿ヶ馬場	新設	既設 便所 2 休けい所 1 ベンチ 3
4	南原峠	駐 車 場	安佐郡可部町大字 南原字穴ヶ平	新設	

イ 車 道

番号	路線名	公園計画上の起点終点	主要経過地	備 考		
				路線種別	路線番号	その他
1	南原峠	起点 広島県安佐郡可部町 大字南原字山の神 (公園境界) 終点 広島県安佐郡可部町 大字南原字猿ヶ馬場	鳥帽子岩 釣鐘岩 孫太郎滝 夕霧滝 びょうぶ岩	町 道		

ウ 歩 道

番号	路線名	公園計画上の起点終点	主要経過地	備考		
				路線種別	路線番号	その他
1	猿ヶ馬場 冠山線	起点 安佐郡可部町大字南原 字猿ヶ馬場 (周回歩道) "	明神岳 獅子岩 加賀津の滝 いしぶねの滝			
2	冠山 堂床山線	起点 安佐郡可部町大字南原 字冠山 終点 "	冠山～堂床 うねつたい			
3	猿ヶ馬場 堂床山線	起点 安佐郡可部町大字南原 字猿ヶ馬場 終点 "	加賀津の滝 堂床山			